

平成 26 年 10 月 20 日 平成 25 年度各会計決算特別委員会第1分科会  
(青少年治安対策本部)

○**小林委員** 私からは、子供の安全対策についてお伺いいたします。

私の地元練馬区では、昨年六月に、区立大泉第一小学校正門前において三人の児童が切りつけられるという事件が発生し、大変大きく報道されました。また、先月には区のホームページに、光和小学校の運動会を開催した場合、学校に爆弾を仕掛け、児童を誘拐する、また、石神井中学校の体育祭に爆弾を仕掛けるという匿名の書き込みがなされました。石神井中学校は、五月に既に体育祭を終えておりましたが、光和小学校では緊急の保護者会を開催し、運動会を延期する事態となりました。

練馬区としても、民間警備員の配置や安全・安心パトロールカーの巡回を行い、スクールカウンセラーなどを活用し、児童生徒の心のケアを図るといった対応をしておりますが、私のところにも、子供の安全に対する不安の声とともに、安全対策に対するご相談やご意見を数多くいただいております。

全国的にも、ことしは児童の連れ去り事件が多く報道されて、一月には神奈川県相模原市、北海道札幌市で、七月には岡山県倉敷市で、それぞれ女兒が連れ去られ、先月発生した兵庫県神戸市での女兒連れ去り事件では、大変に痛ましい結果となってしまいました。

警察庁の調べによりますと、過去十年における十三歳未満が被害に遭った略取誘拐事件は、二〇〇四年の百四十一件以降、二〇〇八年に六十三件まで減少しましたが、ここ数年、またふえ始め、九十件前後で推移しているとのこと。

地域においては、ボランティアによる子供の見守り活動や青色防犯パトロールなどの取り組みが行われておりますが、子供を狙った許しがたい犯罪を断固防ぎ、未来の宝を守っていくためにも、都は、区市町村や警視庁とともに緊密に連携をとり、安心を前進させていく責務があると考えます。

初めに、都として、都内の子供の犯罪被害状況についてどのように捉えているか、基本認識をお伺いします。

○**村山治安対策担当部長** 刑法犯認知件数は、平成十五年から十一年連続で減少しておりますが、こうした中であっても、ことし七月には、瑞穂町の公園であめ玉をもらって食べた女兒が倒れる事件が発生するなど、都内の子供を狙った犯罪は後を絶たない状況にあり、子供の安全対策が喫緊の課題となっております。

都はこれまで、地域の子供の見守りや子供自身の犯罪被害防止能力を向上させる取り組みを推進してまいりましたが、今後も区市町村や警視庁との連携を一層強化しながら、子供を狙う犯罪をなくすことを目指して対策を進めてまいります。

○**小林委員** 都では、地域の子供見守り活動を促進するために、町会や自治会、自主防犯ボランティアなど、地域における活動を先導していくリーダーの育成を平成二十二年度から事業展開していることと思います。事業開始から昨年度まで、地域の子供見守り活動

を推進するボランティアリーダーの育成実績と、育成の結果による活動の広がりについてお伺いいたします。

○村山治安対策担当部長 都内では、登下校時の定期的なパトロールや声かけ運動など、ボランティア等による子供見守り活動が各地域で展開されておりますが、さらに活動を継続、発展させるためには、中心となって活動していく人材の育成が重要でございます。

このため、都は平成二十二年度から二十四年度までの三年間、子供見守りのボランティアリーダー講座を開催し、二百五十八人のリーダーを育成いたしました。さらに、平成二十五年度からは、学校、警察等と連携した事業が展開できる高度な能力を有するリーダーを育成するための講座を開設し、これまで十七人が修了しております。

平成二十五年度に実施した調査によると、講座の修了者が新たに高齢者による児童生徒の登校見守り隊を結成するなど、各地域で多様な防犯活動を展開しており、見守り活動の広がりにつながっているところでございます。

○小林委員 ただいまご答弁いただきましたとおり、育成されたボランティアリーダーが地域の核となって活動が推進されるわけですが、一方で、防犯ボランティア団体の担い手がご年配の方が中心で、高齢化という課題も散見されております。大学生や高校生を中心とした若い世代による防犯ボランティア活動も、地域において取り組まれております。

地元練馬区においても、私立の東京女子学院中学校・高等学校において、昨年、高校生防犯ボランティア団体の東京女子学院防犯ボランティアが発足いたしました。老若男女を問わず、地域が一体となった取り組みが重要でありますので、引き続き活動の活性化のための講座を充実させたボランティアリーダーの育成をお願いしたいと思います。

都では、本年度より通学路における防犯カメラの整備に対する区市町村補助事業を開始しましたが、このような防犯設備の充実を推進していくことは、地域の安全・安心のための大きな一助となりますが、一方で、子供がみずから危険を回避する能力を高めていく教育も大切であると思っております。

警察庁が、昨年発生した児童が連れ去られたり誘拐されたりした事件九十四件を分析したところ、そのうち二十九件が十四時から十八時という下校時間帯に発生。発生場所で最も多かったのは道路上、次いで共同住宅。また、摘発した七十五件のうち三十一件は、容疑者と被害児童は面識がなかったそうであります。

このような分析結果も反映させながら、地域の大人が団結して子供を守る環境を整えていくことは当然として、どのような場所や状況に危険が伴うのかを子供自身が学び、注意していくことにも取り組んでいく必要があります。

都においては、地域安全マップづくり事業に取り組んでおりますが、その意義と事業の推進に当たって重視している点について確認いたします。

○村山治安対策担当部長 都が学校等において普及に努めている地域安全マップづくりは、子供が実際に地域を歩き、誰でも入りやすく、誰からも見えにくいをキーワードに、犯罪が起りやすい危険な場所を確認して地図にあらわすものでございます。

地域安全マップを作成する過程で、子供が犯罪が起りやすい危険な場所の特徴を改めて考えることにより、景色を見て、みずから安全、危険を見分けることができる能力を養うことが重要と考えております。こうしたマップづくりを通じて、子供自身の犯罪被害防止能力を高めることは大変重要でございます。

○**小林委員** さらに、この地域安全マップづくりを推進するに当たって、作成を指導する指導者の育成をどのように行っているのか、その内容と実績について伺います。

○**村山治安対策担当部長** 都は、正しい地域安全マップづくりの知識や方法を周知するため、平成十七年度以降、指導者を育成するための講習会を開催するとともに、地域安全マップ作成指導用のマニュアルを作成し、都内全ての小学校へ配布しております。平成二十五年度は、講習会等を十回開催し、四百三十三人の教員等が参加しており、平成十七年度以降の累計として八十一回の開催、六千七百七十四人の参加となっております。

こうした指導者育成の取り組みにより、平成二十五年度は都内公立小学校の五五・五%で地域安全マップづくりが自主的に行われました。マップづくりを行った学校からは、子供が、放課後や休日にも入りやすく見えにくい場所は危険な場所と常に意識しながら歩くようになったとの報告をいただいているところでございます。

○**小林委員** 事前に危険を回避するために地域のことを学ぶ地域安全マップづくり、この体験学習、大変に大事であるというふうに思いますし、今後もぜひ推進を強化していただきたいと思いますが、万が一、危険に遭遇した際、助けを求めた子供を保護し、警察への通報などを行う子供一一〇番の家の取り組みも進められております。

練馬区では、ひまわり一一〇番という名称で、協力する事業者や家はステッカーを掲示しておりますが、我が家もこのステッカーを自宅に取りつけております。いざというときに真っ先に子供が安心して助けを求められるよう、子供一一〇番の家が有効に機能していくようにしていかなければなりません。

先月、練馬区立豊玉東小学校で、子供一一〇番の家への駆け込み訓練を実施したと聞いておりますが、この駆け込み訓練の内容について伺います。

○**村山治安対策担当部長** 子供一一〇番の家は、子供が危険に遭遇したり困り事があるとき、安心して立ち寄れる場所であり、町会や自治会、PTA等が中心となって自主的に表示させているものでございます。こうした子供一一〇番の家が子供の犯罪被害の防止に効果的に機能するためには、通学路等で危険に遭遇したときに逃げる能力を身につけるとともに、逃げてきた子供を実際に子供一一〇番の家で適切に受け入れられることが重要であります。

このため本訓練は、子供がいざというとき、子供一一〇番の家など、知らない人の家に駆け込むことができ、また、駆け込み先の協力者も落ちついて保護、通報が行えるよう、不審者役による声かけに始まり、駆け込み、保護、通報という一連の流れをロールプレイングで行うものでございます。都は今後、他の区市町村にも訓練の実施を働きかけ、取り組み

を広げてまいります。

○**小林委員** 今回の訓練、私の地元の練馬区で行われたわけでございますけれども、事前にこの駆け込み訓練の実施をすることを私、存じ上げなかったものですから、見学に行けず、大変に残念でありましたけれども、今後も同様の訓練を実施していくとも聞いておりますので、ぜひ一度現場を見学させていただき、さらに勉強させていただきたいというふうに思っております。

地域で子供一一〇番の家がふえても、子供自身が子供一一〇番の家がどこにあるのか、どのように助けを求めればいいのかを知っていくことは極めて大事なことですし、受け入れる側の大人にとっても、知っておかなければならないことがたくさんあるかと思えます。

子供一一〇番の家がなくてもいい地域社会を築いていくことが重要でございますけれども、いざという時のために、子供を守るとりでとなれるよう、駆け込み訓練も積極的に広げ、全児童が安心できる環境づくりをさらに進めていただきますようお願いいたしまして、私の質問を終わります。